

東京都荒川区で 大倉獅子舞を披露

荒川区政施行75周年記念「ふるさと郷土芸能の祭典・ふるさと市」に参加

2月3日、東京都荒川区で開催された荒川区制75周年事業「郷土芸能の祭典・ふるさと市」に荒川区との交流自治体の一つとして参加

しました。
小野町が荒川区の学童疎開先であったことがきっかけとなり、これまでも多くの交流事業を行っています。

今回の事業は、荒川区の区制施行75周年を記念して行われたもので、郷土芸能の祭典では、当町の小野大倉獅子舞保存会のみなさん



による獅子舞が披露され多くの観客を魅了しました。
またふるさと市では、小野町のミネラル野菜や加工品などのPRと販売が行われ、休む暇がないほどの忙しさで、閉店前に完売してしまふほどの大盛況でした。
これからも荒川区との交流を積極的に進めてまいります。

ふるさと小野町会 ふれあい通信

バッパの思い出

関根 みい子

(飯豊出身・東京支部)



もう50数年も前のこと、小学3年生の頃のバッパとの思い出を暴露しましょう。

学校から帰ると、囲炉裏端でタバコを吸い、お茶を飲みながら大きな声でいつも歌っていた。

「オチャ飲め」と出廻らしのお茶を注いでくれ、花は霧島々々タバコはコクブク…と一緒に口ずさむこともあった。トイガではよく縫い物をしており、針を通す手伝いをしては褒められ、鉛を貰った時は嬉しかった。バッパの枕元には、常にお菓

子とドロップが置いてあったので、よくヌスンだり、特製の「牛乳ご飯」をヌスミ食いついてはバレナカッター！と知らん顔…。気丈なバッパだったが、小さな虫にも「オッカネエー！」と悲鳴を上げ顔面蒼白と化する。しかし、蛇は平気の平左衛門で、さつと皮を剥き、あつという間に串焼き…という具合。

いろいろな顔を持つバッパは、私のブスクレを「色黒は元氣な証拠、ベジャ鼻はドッシリしててイイダゾ！」と慰め励ましてくれた。今でも鏡を見る度に「バッパ鼻」と苦笑するが、兄や姉妹たちにはどんな思い出があるだろうか。バッパ談義を計画中…。

「ヌスミハシツテダゾ
ありやー、なじよしっ
ぺ」

